

第33回 マリンボールカップ男子 Bゾーン決勝 8月4日(土)

寄居ミニバスケットボールクラブ (埼玉) 31 VS 45 六ッ川ミニバスケットボールクラブ(横浜南部)



- 1Q** 寄居ゾーンプレス・六ッ川マンツーマンでスタート。開始2分間両者ともシュートまで行くがゴールにならず、沈黙を破ったのが寄居#7(黒元)の外角シュート#8(山本)のエンドプレーからのゴール下のシュートと勢いづいた。しかし、寄居のゾーンプレスに対して六ッ川#10(蛭子)がドリブル突破しアシストからチャンスを作り5-6六ッ川リードで1Q終了。
- 2Q** ディフェンス両者共に1Q同様でスタート。立ち上がり1Qとは逆に早い攻めからの点の入れ合いになる。寄居#5(白川)、#6(脇)、#11(高田)らのパス回しからシュートが決まりオフェンスのリズムが良くなってきた。六ッ川もディフェンスで粘り加点していくがラスト2分寄居のプレスに六ッ川の足が止まってしまうためタイムアウト。その後点差は変わらず17-15寄居リードで2Q終了。
- 3Q** 開始早々六ッ川の攻撃は止まらず、#9(萩原)のドリブル突破からの#4(鈴木)へのアシストでシュート。#12(佐藤)のゴール下と確実に加点していく。寄居たまたまハーフコートマンツーマンに変えて守りを固めるが21-33と大きく六ッ川リードで3Q終了。
- 4Q** 寄居ハーフマンツーマン。六ッ川オールコートマンツーマンでスタート。3Q同様六ッ川#10(蛭子)らがオフェンスのリズムを作り#4(鈴木)の外角#10(蛭子)のドライブで加点していく。一方、寄居は1対1で攻撃するがなかなか加点することができず、たまたまラスト4分で寄居タイムアウト。その後、オールコートのディフェンスに変更。粘り強いディフェンスからリズムをつかみ寄居#10(畠山)のインサイドプレーで加点していくが3Qでの点差は変わることなく六ッ川が優勝を決めた。最後まで諦めず戦いに挑んだ寄居の選手を讃えたい。